

～希少がんを知り・学び・集うセミナー！～

希少がん Meet the Expert

第4回 「悪性胸膜中皮腫」開催レポート

4月14日(金)、国立がん研究センター希少がんセンターにて「希少がん Meet the Expert」の第4回目が行われました(共催:がん情報サイト「オンコロ」、認定NPO法人キャンサーネットジャパン)。今回のテーマは「悪性胸膜中皮腫」。同センター呼吸器内科医師である後藤悌先生をお招きし、講演していただきました。司会は希少がんホットライン担当の看護師・加藤陽子さんです。



「悪性胸膜中皮腫は、膜の中で塊を作らずに発生するため画像での診断がしづらく、発見が難しいことが特徴」と、後藤先生は言います。肺がんと似ている場合もあることから、しっかりと診断していくことが重要となります。

今回の講演では、悪性胸膜中皮腫の原因のひとつである石綿(アスベスト)に関するお話や、病期(ステージ)診断のための方法とその役割、現在の治療法(EPP 及び P/D 手術、放射線、化学療法)についてなどを分かりやすくご説明いただきました。

化学療法では、現在、主流となっているシスプラチンとベメトレキシドの併用のほか、研究が進められているシスプラチンのカルボプラチンでの代用、分子標的薬(アバスチン)や免疫療法(キイトルーダ)などについての解説もありました。

また、これまで研究に参加してきてくれた患者さんがいたために現在の治療法があること、臨床試験に少しでも協力してもらうことが医学の進歩に繋がることをお話されました。



続いての Q&A では、後藤先生と加藤さんに、「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」の古川和子さんと、オンコロ・コンテンツ・マネージャーの柳澤昭浩さん、同じくオンコロの可知健太さんが加わり、参加者からの質問に回答しました。質問は、腫瘍マーカー、病院の探し方、希少がんの臨床試験についてなど、多岐にわたるものでした。



「1週間前に中皮腫と診断されたが、この病気と向き合っていくためにはどうしたらいいのか」という質問に対し、古川さんは「10 年前よりも明らかに医療は進歩し、生存率も上がっています。ネットなどの情報は過去の統計。あなたの治療は、これからの統計になります」とお話されました。

参加者からは、「もっと後藤先生のお話を聞きたかった」「やはり治療法が少ないことが分かり残念。でも勇気づけられた」という声のほか、メディカルスタッフの参加者より「説明が分かりやすかった。希少がんの患者さんの生の声を積極的に聞いてみたい」との回答もありました。このセミナーは患者さんのみならず、医療従事者が希少がんについて学び、患者さんと接することにも活用できる場となっているようです。（詳しくは動画をご覧ください）



(開催日:2017年4月14日/写真・文 木ロマリ)

【共催】

国立がん研究センター希少がんセンター/がん情報サイト「オンコロ」/認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン

【後援・運営協力】

株式会社かるてぼすと/樋口宗孝がん研究基金/株式会社臨床・トライアル/株式会社クロエ